

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	106人	算数	106人	理科	107人
第5学年	国語	124人	算数	124人	理科	125人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

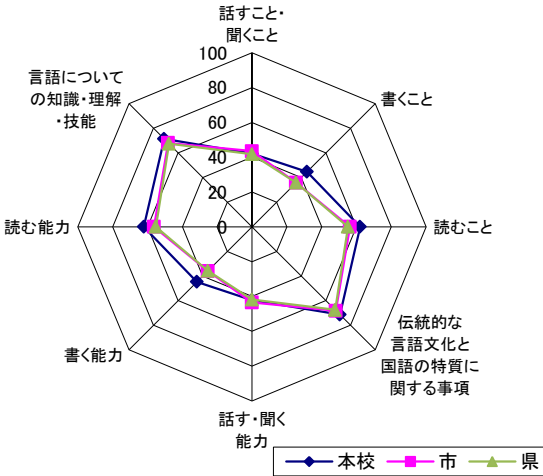
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	42.1	43.5	41.8
	書くこと	44.7	35.9	35.8
	読むこと	62.1	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.4	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	42.1	43.5	41.8
	書く能力	44.7	35.9	35.8
	読む能力	62.1	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	71.4	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

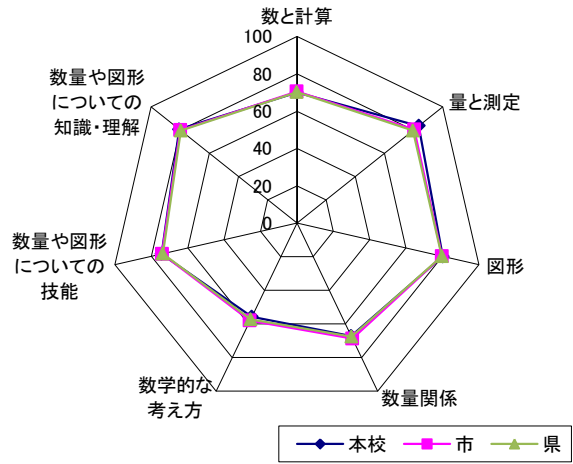
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話の中心に気を付けて聞き、意見を述べることや進行にあった話し合いを進めることに関する問題の正答率が低い。	・国語科だけでなく、他教科や学級活動などでも話し合いの機会を増やし、友達と自分の考えを比べながら聞く力や、話し合いの進行に合わせて自分の意見をまとめて伝える力を育成していく。
書くこと	○相手に伝えなければならない大事なことを落とさず、目的に合わせて文章を書くことができる。	・目的や構成を決めた作文や日記の指導を継続していく。
読むこと	○物語文の登場人物の性格や気持ちなどについて、その言動や様子の記述から読み取ることができる。	・朝の読書の時間の確保、読書カレンダーの活用、毎日の音読の宿題などを継続していく。また、気持ちの読み取りをするときには、根拠となる記述をもとに想像できるように、文章を注意深く読み進める指導を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きの正答率のほとんどが、県よりも高い。 ●国語辞典の使い方に関する問題の正答率が県よりも低い。	・漢字に興味をもたせる指導の工夫をし、熟語集めなど語彙が広がる練習の仕方を指導していく。 ・新しい単元に入るときなどに、意味が分からない言葉を辞典で調べさせるようにし、辞典の使い方に慣れさせる。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.1	70.5	70.3
	量と測定	83.6	80.4	79.6
	図形	80.2	79.8	79.7
	数量関係	67.1	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	55.7	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	74.3	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	80.6	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

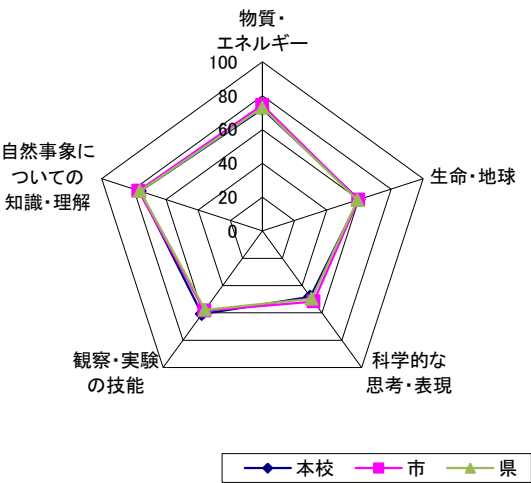
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○繰り下がりのある4位数同士の引き算の正答率が高い。 ●県と比較すると正答率が下回っている。特に、「1000を単位とした相対的な大きさで捉える」設問の正答率が8.1ポイント低かった。 ●等分除の問題について、除法の式を立式し答えを求めることが苦手な児童が多い。	・大きな数の仕組みについて、朝の学習や家庭学習などを活用して習熟を図る。 ・文章問題の数量関係を図や式に表し説明する算数的活動を通して、表現する力を高める。
量と測定	○県の正答率よりも4ポイント上回っている。特に「ある時刻から一定時間前の時刻を求める」設問で、県の正答率を6.3ポイント上回った。 ●時刻表から東・西コースの乗船時間を求め、比較する設問で県の正答率を9.6ポイント下回った。	・知識と技能の習熟を図るだけでなく、身に付けたものを活用して解く活用問題に取り組ませる。
図形	○全体的に県の正答率を上回っている。 ●コンパスを使って正三角形を作図することや、二つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形が苦手な児童が多い。	・朝の学習や家庭学習などで作図に取り組ませる。 ・二つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形については、実際に作業をさせるなどして、実感を伴った理解をさせるようにする。
数量関係	○棒グラフを読み取る力が身に付いている。 ●全体的に県の正答率とほぼ同じ程度であった。 ●口を使った乗法の式にあった文章問題を選ぶことができない児童が多い。	・図や式に表された事柄を、説明する活動を多く取り入れるようにする。その際「はじめに」「次に」「よって」など順序を示す言葉を意識的に用いるようにし、繰り返し指導する。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.3	74.5	72.9
	生命・地球	60.0	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	48.3	51.6	49.7
	観察・実験の技能	60.9	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	76.2	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○磁石につけると磁石になるものがあることや、磁石の異極は引き合い同極は退け合うことや、磁石の先端ほど引きつける力が大きいなど、磁石の性質に関することは県や市の平均を上回っている。 ○物は形が変わっても重さが変わらないことや、体積が同じでも種類で重さが違うことについては、ほとんどの児童が理解できていた。 ●実験結果からゴムの伸びを推測する問題や、電気を通すつなぎ方を問う問題では、正答率が低い。 ●銅の性質をもとに分類し、その理由を記述して説明する問題は県や市の平均を下回った。	・実験で自分が見たり体験したりしたことは正しく理解ができているが、結果をもとに考察したり、理由を説明できない児童が多い。これまでのように自分自身が実験を行い、学習内容を理解できるようにしていくことは継続しつつ、ノートやワークシートに実験の過程や結果を、大切な言葉や図などで表現するための時間を確保し正しく理解できるようにしていく。 ・選択式の問題はできるが、短答式の問題や記述する問題で正答率が低いことから、実験の過程やどうしてそのような結果となるかについてを記述する学習を積極的に取り入れ、科学的な事象を正しく理解できるようにする。
生命・地球	○植物の体のつくりの特徴については正答率が高い。 ○チョウの成虫と幼虫の口の様子が違う理由や、成虫が卵を産む場所と食べ物とを関係付けて考察する問題は県や市の平均を大きく上回った。 ●かげの長さ調べの結果から日時計の製作を改善する問題は、約8割の児童が正答できなかった。また、日陰のでき方と植物の成長を関連付けた問題では正答率が低かった。 ●昆虫の育ち方には一定の順序があることを、約半数の児童が理解できていない。県や市の平均を大きく下回っている。	・児童の生物への関心は高く、学校や地域の環境的にも恵まれているので、普段から生物にふれ合う機会や身近な話題を児童に提供し、児童の関心が高まるようにしていく。 ・かげのでき方と太陽の関係は多くの児童が理解出来ているので、実際に学校の木々や花壇を具体的に取り上げて、現場に行き、方位や太陽の位置とも関連付けながら、日陰の位置の変化と植物の成長を考えられるような指導を取り入れていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と答えた児童の割合は、79.6%と県の割合を20%以上超えている。自主学習の励行の成果が表れている。

●自主学習の内容はというと、ほとんどの児童が「復習や調べ学習」と答えており、「予習」を行っている児童は少ない。「予習しておくことの利点」も伝えることで、家庭学習の幅を広げさせたい。

○「1ヶ月に11冊以上読書している」と答えた児童が40%いた。また、「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」と答えた児童の割合は、57.4%と県の割合を20%近く上回っている。児童にとって、本やパソコンが身近に使いやすい環境で整えられているということが分かる。朝の読書の時間の確保、オレンジブック(学級文庫)の設置、読み聞かせの実施などの効果であると思われる。また、本年度は、学校のパソコン室のパソコンも最新の使いやすい機種が導入され日々の学習に利用しやすくなった。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができる」「クラスは発表しやすい雰囲気である」と答えた児童の割合が、県の平均を10%上回っている。これは、児童の人間関係が良好である表れである。引き続き、共に学び合うことができる学級集団の育成を進めていきたい。

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	106人	算数	106人	理科	107人
第5学年	国語	124人	算数	124人	理科	125人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

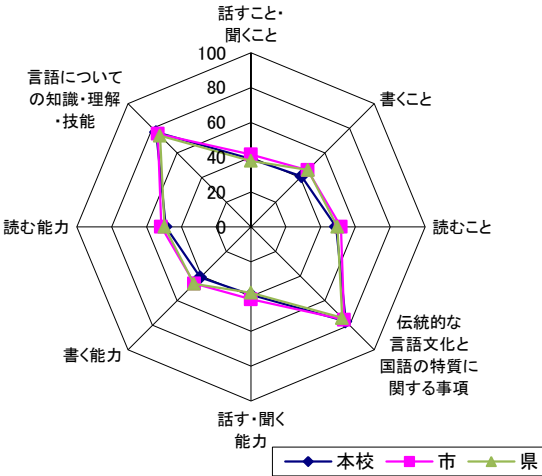
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	39.0	41.6	37.9
	書くこと	41.1	46.1	46.3
	読むこと	48.9	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	39.0	41.6	37.9
	書く能力	41.1	46.1	46.3
	読む能力	48.9	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	76.9	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

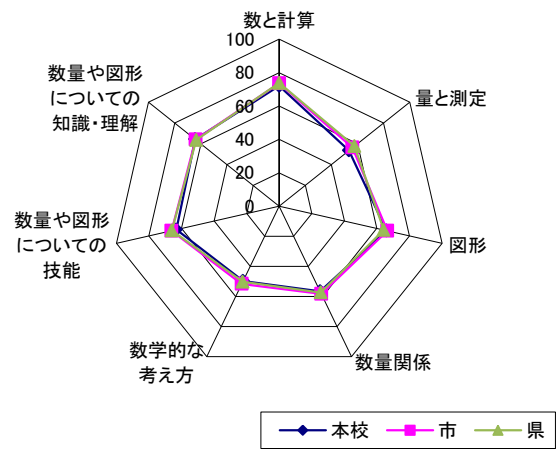
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いにおいて提案者の役割を理解することができている。 ●話し合いにおいての司会者の役割や、進行に沿った話し合いにするために、どのような提案や理由を述べたらいいか考える問題の正答率が県の平均よりやや低い。	・司会者や提案者の役割について、学級活動などの実際の話し合い活動の場を通じて繰り返し指導をしていく。 ・朝の1分間スピーチなどの時間を活用し、自分の思いを相手に伝えるための、分かりやすい話し方について継続的に指導をしていく。
書くこと	●必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択すること、目的に応じて資料の見せ方を工夫することの正答率が低く、課題が見られる。	・学校行事の感想や日記、教科書や新聞の視写などを朝の学習や家庭学習などで取り組ませ、文章を書くことに慣れ親しむことができるようにする。 ・授業では、書き方の例文などを提示することにより、文章を書くことに苦手意識がある児童にも取り組みやすく、達成感のある授業を展開するようにする。
読むこと	●叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むこと、本文中の言葉が指す内容を捉えること、段落相互の関係を押さえて読むことの正答率が低く、県の平均を下回っている。	・朝の読書の時間を活用し、ブックトークや読み聞かせを行ったり、教科書に出てくる本を「チャレンジ読書」として読ませることで、たくさんの優れた文章に触れさせるようにする。 ・物語や説明文を学習する際に、言葉の意味を確認し、主語・述語、接続詞に気を付け、中心になる事柄や場面の様子をまとめるなどの活動を取り入れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きや、漢字の組み立て、ことわざの使い方についての正答率は、県の平均を上回っている。 ●漢字辞典の使い方について理解できていない児童が多い。	・国語辞典や漢字辞典を使った授業や家庭学習を普段から取り入れていく。 ・継続的に漢字の読み書きについての確認テストを行い、児童が達成感をもてるようにする。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.1	73.6	73.7
	量と測定	53.5	56.2	57.7
	図形	65.9	66.5	64.2
	数量関係	56.6	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	49.8	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	63.2	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	64.3	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

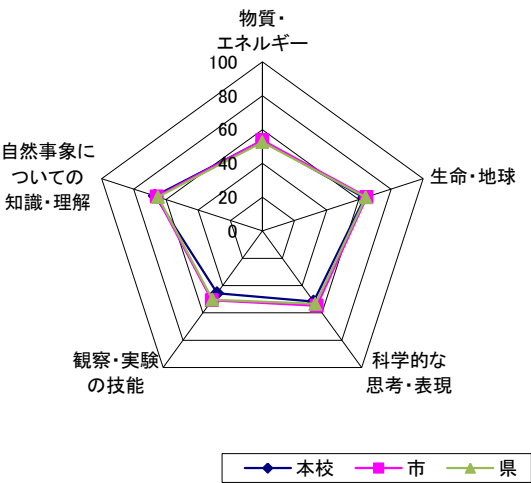
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●基礎的な計算の方法についての理解が十分でない児童が多く、点数に開きが見られる。 ●小数(小数第2位)×一位数の計算、与えられた数を四捨五入する問題の正答率が低い。	・基本的な計算の方法について、朝の学習や家庭学習などで復習させたり、理解が十分でない児童については、コース別学習で個別に指導するようにする。 ・計算ドリルを活用し、正確に計算ができるよう繰り返し練習させる。
量と測定	●正方形の面積の求め方については、定着度に二極化の傾向が見られる。	・理解が十分でない児童については、面積の求め方について、具体物などを使って繰り返し指導し、定着を図る。 ・朝の学習などで面積を求めるドリル学習を繰り返し取り組ませる。
図形	○直方体においてある面と垂直な辺を選ぶ問題や、2つの辺の続きをかくて、ひし形を完成させる問題は、県の平均を上回る正答率である。 ●複合図形の面積を求める場面で、図に適した式を選ぶ問題の正答率が低い。	・長方形や正方形はもちろん、平行四辺形、台形、ひし形がどのような図形で、どんな性質があるかを理解させる必要がある。 ・基本をしっかり身に付けられるよう指導していく。
数量関係	●四則混合で()のある式について、計算の順序を選ぶ問題については、理解が十分でない児童が多い。 ○折れ線グラフの読み取りについては、比較的正答率が高い。 ●段と周りの長さの関係を○と△を用いた式で表す問題は理解が十分でない児童が多く、定着度に二極化の傾向が見られる。	・筋道を立てて考え、なぜそうなるかの図や式、言葉で記述していく学習は行っているが、しっかりと答えを出すことができる児童は多くはないので、繰り返し学習を積み重ねていく。 ・四則混合の計算の順序に関しては、朝の学習や家庭学習などで継続的に問題に取り組ませていく必要がある。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.5	53.7	52.5
	生命・地球	63.5	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	51.7	54.7	53.4
	観察・実験の技能	45.6	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	66.8	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○温度の変化と空気、水、金属の体積の変化とを関係付けて考え、問題を解くことができています。 ●水は温度によって状態が変化し、氷になると体積が増えるという考えをもつこと、水蒸気や氷に姿を変える水の状態変化と温度との関連付けが十分理解できていない児童が多い。	・授業で学習したことが十分に定着していない児童が多いと考えられる。プリントなどで、これまでの学習を振り返る時間を授業の中で設定し、学習内容の定着を図りたい。 ・学習した内容をできるだけ日常生活と関連付けて考えることができるように指導をしていく。
生命・地球	○月や星を観察して、その位置の変化を時間と関連付けて考えることができています。 ●運動しているときのヒトやほかの動物の体の動きと骨や筋肉のはたらきとの関係についての理解が十分でない。 ●「方位磁針の使い方」「星座早見」の使い方などの観察・実験の技能に関する問題の正答率が低い。	・視聴覚教材などを利用し、授業の内容の理解が深まるように工夫していく。 ・できるだけ少人数で実験や観察を行わせ、観察や実験の技能の向上を図る。 ・星座早見盤の使い方を児童に理解させるとともに保護者にも協力していただき、親子で観察する機会を作ることによって早見盤の使い方の理解を深めさせていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で考えた学習をしている。」「家で学校の授業の予習をしている。」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」などの項目で、肯定的に回答した児童の割合が市や県よりも上回っており、家庭学習について真面目に取り組んでいる様子がうかがえる。今後も家庭学習の内容ややり方について、児童に指導し、保護者に協力をお願いする。

●「授業の内容がよく分かりますか。」という項目での回答に二極化が見られる。また、国語に関しては、「問題を解く時間は十分でしたか。」という項目で「足りなかった」「やや足りなかった」と答えた児童の割合が他教科よりも高い。文章をしっかり読み、問題の内容をきちんと理解する力が十分でない児童がいることが考えられる。今後は読書指導も含め、読解力をつけるための指導を工夫していく。

○「自分にはよいところがあると思う。」や「自分はクラスの人役に立っている。」などの項目で肯定的に答えた児童の割合が高く、学校や学級の中で自己肯定感を感じながら学習や生活をする事ができている児童が多いことがうかがえる。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」「時間を上手に使うことを心がけている。」という項目での肯定的な回答の割合は、市や県よりやや低い。道徳や学級活動などの授業、教育相談の時間などを活用し、児童と話し合っていく必要がある。